

300万から始めて日経225システムトレードで、 毎年227万円を稼ぎ続ける方法

保田です、こんにちは。

この度は限定無料レポートをダウンロードいただき、ありがとうございます。

私は、2004年にこの投資関連業界に入り、それ以来、実に200以上の投資ノウハウを目にしました。数多くの商材企画にも携わってきました。

学習したノウハウは自分でも研究し、そして実際に身銭を切って投資してきました。

その経験を経て今、声を大にして言いたいことがあります。

それは、「世の中の90%以上の投資商材がクソ商材だ。」ということです。

数々の失敗を経験しながらも1億近くのお金をつかんだ今、本当にそう思うのです。

「マーケットという厳しい世界で、長期的に利益をあげ続けられる手法は、ほとんど存在しない。」
これは揺るぎない事実です。

ただ残念なことに、その本当に利益をあげ続けられる手法は、ほとんど公開されていない。
いや、むしろ、世に出回るノウハウの大半が、あなたに損をさせる可能性が高い代物だと私は考えています。

だからこそ、当レポートでは、

「どうしたら資金300万円の投資家でも、本当に利益があげられるのか・・・？」
について取り上げて行きたいと思っています。

ただ、このレポートを読む前に、約束してください。

私はこのレポートに、自分の経験を全力で叩き込みました。

私が血に飢えた狼のように貪欲に努力することで獲得した知識は、必ずあなたの投資に、プラスの影響をもたらすことでしょう。

だから、もしあなたがマーケットの世界で本気で利益を手にしたと考えているのならば、真剣に読んで欲しいのです。

一語一句見逃さないように、プリントアウトして、線を引きながら、真剣に読んで欲しいのです。それが、300万円という小さな資金から、のし上がっていくための最初の一步です。

マーケットの世界は厳しい世界です。

本気でやらないのならば、損するだけですから、やらない方がよっぽど良いです。

このレポートを手にしたあなたは、投資で成功したいと心から願っているはずですよ。

であれば・・・

「真剣に読む。」

これを忘れないようにしてください。

それでは始めます。

あなたがトレードで長期的に利益をあげるために採用すべき手法とは

「相場の先行きを予測することは不可能であり、天才トレーダーなど存在しない。」

私は、マーケットの世界で本当に利益を手にしたいのならば、絶対に受け入れなければいけない考え方が、これだと考えています。

「私は優れた相場勘を持っている。」

「オレは、一流のトレード技術を身につけている。」

「オレは、●億円儲けた。」

これらの言葉と共に、本当に沢山のヒーローがこの投資業界には登場してきます。

しかし、それを盲目的に信じることは非常に危険です。

なぜか？

私は、次の3つの視点を持ち続けるべきだと思います。

- (1) 自称●億円稼いだ一流トレーダーは果たして本当の実績を言っているのだろうか？
- (2) その人が本当に稼いでいたとして、その手法は自分で実践することが可能か？
- (3) そのトレーダーは、今後何年にもわたって勝ち続けることが可能か？

この3つは、もしあなたが本当に着実にトレードで利益を手にしたいのであれば、絶対に忘れてはならないポイントです。

1番目のポイントについては、その人の口座をすべてチェックするのは、不可能ですから、検証しようがありません。

ただ、そういう可能性もあるということだけは、心に留めておいてください。

2番目と3番目のポイントについては、深く考える必要があります。

■ 公開されているトレード法は、売買ポイント、売買数量、資金管理といった具体的なトレードノウハウが示されているでしょうか？

■ 例えば過去データを使った検証等を通じて、その有効性を客観的に証明することは出来るでしょうか？ ※本人が「この方法で儲けた！」と主張しているだけではダメ

■ どの程度の期間、その手法は有効に機能していたのでしょうか？

私は、命の次に大切な自分のお金をリスクに晒すのであれば、最低でもこの位は熟考する必要があると思うのです。

そして、自分自身の手で、有効だとされているトレード手法を、過去データを使って検証してみる必要があると思うのです。

もし今あなたがトレードに取り組んでいるのであれば、以下の質問を自問自答してみてください。

「あなたは今、トレードで儲かっていますか？」

「何かしら明確に定義されたトレードルールを持っていますか？」

「あなたの手法は、長期的に有効性を証明することは可能ですか？」

この3つの質問に、「Yes」と答えられないのであれば、今すぐにトレードをやめることをおすすめします。

ギャンブルとしてトレードに取り組んでいるのなら、かまいません。

ただ、運や感覚に頼って、その場その場でトレードして、長期的に儲け続けるのは不可能です。

もしあなたが長期間にわたって、トレードで儲けていきたいのであれば、有効に機能し続けるトレード法が絶対に必要です。

過去有効であった方法に従って、トレードし続ける以外に、トレードで成功できる方法は、ほとんど存在しないのが現実です。

つまり、裁量トレードではなく、売買ルールに従ったシステムトレードこそが、長期的に利益をあげていくにあたって採用すべきトレード法なのです。

それではより具体的に、あなたが今後採用すべき投資手法を見て行きましょう。

日経225先物システムトレードのススメ

ここでは、あなたが今後採用すべき投資手法として有力な候補の一つとなりうる、日経225先物システムトレードについて説明します。

システムトレードを採用するのは良いとして、日経225を投資対象とすることに合理性はあるのでしょうか？

私たちは、日経225先物システムトレードに以下のようなメリットがあると考えています。

(1) バックテストが容易である

日経225先物という1銘柄だけをトレード対象としますので、バックテストが容易です。少なくとも、個別株やFXといった複数銘柄でのバックテストよりは遥かに容易です。市販の表計算ソフトであるExcelを使ってバックテストを行うことが可能です。

(2) 銘柄固有の影響を受けない

例えば、ある特定の個別株1銘柄でシステムトレードを行う場合、その銘柄固有の影響が大きすぎて統計的優位性を活かすことができません。つまり、資金を分散させて複数銘柄でトレードする必要があります。

逆に、日経225先物の場合、225銘柄の値動きで決まるものですので、銘柄固有の影響を強く受けることはありません。

(3) 資金管理が容易である

日経225先物はレバレッジ効果を簡単に活用することが可能です。また、2006年7月には、日経225先物ミニも登場し、より小さなロットでトレードが可能となりました。

そのため、300万円といった少ない資金でも厳密な資金管理を行いながら、システムトレードを実践することが可能です。

(4) 売りも買いも平等に行うことができる

個別株の場合、空売りができる銘柄は限られていますし、空売りのコストも高くつきがちです。

また、FXは、売りも買いも自由であるとはいえ、スワップ金利を意識すると、どうしても高金利通貨を買うというバイアスがかかりがちです。

その点、日経225先物は、売りも買いも平等に行うことができる投資対象だと言えます。

このようなメリットがある日経225先物で、安定的に利益を出すことができるならば、あなたにとってすごく有意義なことだと思いますがいかがでしょうか？

300万円といった少ない資金でシステムトレードを実践するのであれば、これほど適し投資対象はないと断言できます。

個別株1銘柄では、あまりにその企業特有の事情に左右される影響が大きくなります。

例えば、以前、日興証券に粉飾決算疑惑が持ち上がり、ストップ安になることがありました。

おそらく日興証券だけを対象にシステムトレードを実践していたら、大損失を被ったと思います。これは突発的な事故のようなものです。

ただ、小数の個別銘柄でシステムトレードを行っていると、どうしてもこういったリスクが生じてしまいます。

よって個別株では最低500万円程度を用意して、銘柄分散をはかる必要があるわけです。

一方日経225の場合は、225銘柄の平均ですので、1銘柄の特殊事情によって、トレード損益を左右される可能性が、非常に低いです。

ですから、300万円といった小さい資金でのシステムトレードを想定した場合、非常に適した投資対象であると言えるのです。

※当然流動性も十分ですから、大きな資金でも問題ありません。

しかし、日経225先物といえば、プロのディーラー達も多数参加しており、厳しい世界であることは間違いありません。

「そんな日経225先物の世界で、本当に有効に機能する戦略が存在するのか？」

あなたは、こんな疑問をお持ちかもしれません。

実際、先物の世界では9割の人間が負けていると言われていました。

それでは、なぜ、多くの人が日経225先物で利益を上げられないのでしょうか？

本当に、日経225先物の世界は競争が激しくて勝てないのでしょうか？

私はそうは思いません。むしろ、逆だと思っています。

多くの人が日経225先物で負けている理由は、以下の3つが考えられます。

① 運や感覚に頼って、その場その場の判断でトレードを行っている

裁量トレードで勝つのが難しいことはさんざん説明しました。ましてや、日経225先物というのはゼロサムゲームの世界ですから、なおさらそういえます。

しかし多くの市場参加者が、「オレにはトレードの才能がある。」という幻想を持ち続け、負ける可能性の方が圧倒的に高い“裁量トレード”を実践しているのが現実です。

その結果、案の定やられます。

② 巷で言われているテクニカル指標を、大した検証もせずに利用している

人間は本来、怠け者です。労せず利益を出すことが出来ればよいと考え、過去データの検証という面倒な作業を行おうとしません。

ある投資本に、「ゴールデンクロス／デッドクロスが有効だ」「MACD が有効だ」と書いてあれば、多くの人があるの裏づけも取らず、いきなりトレードを始めてしまいます。

バックテストをすれば、それが有効でないとすぐに分かるにも関わらず・・・。

③ 分析そのものが目的になっていて、利益を上げられない

システムトレードというと、難しく考える人が多いです。

特に多いのが、何の根拠もなく複雑なテクニカル指標をただ単に組み合わせるという人です。

有効に機能するテクニカル指標は存在しますが、数多くのテクニカル指標を研究したり、算出方法を暗記したりした所で意味がありません。

逆に、儲かるテクニカル指標と言うのは、決して複雑ではなく、シンプルなものが多いです。

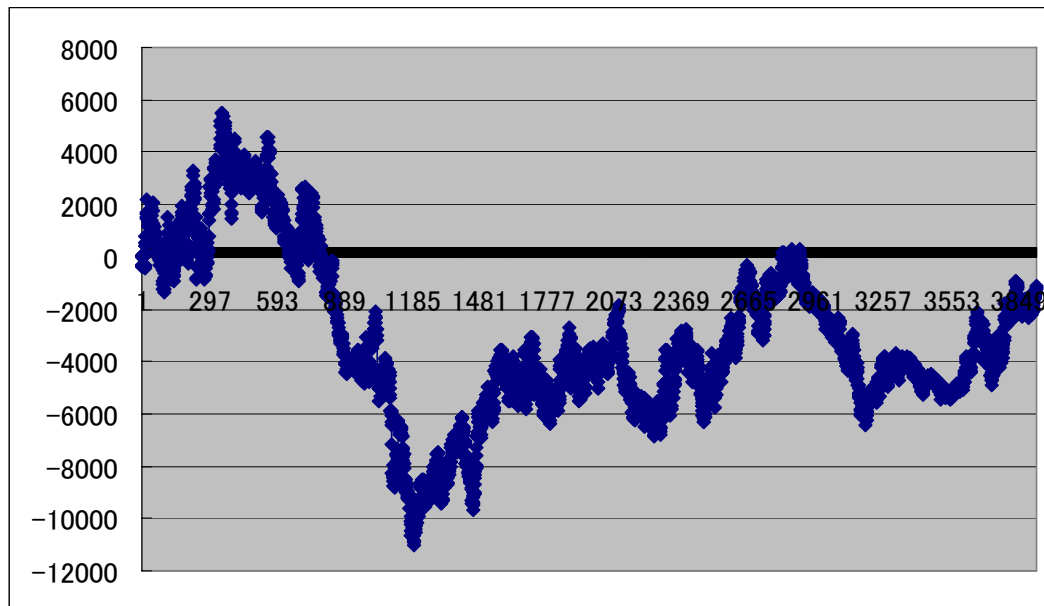
論より証拠というわけで、早速、有効なトレードルールがあるのかどうか、具体的なテクニカル指標の検証結果を見て行きたいと思います。

検証結果1 移動平均

【ゴールデンクロス／デッドクロスを利用したストラテジー】

買いシグナル	5日移動平均(終値ベース)が 10日移動平均(終値ベース)を上抜け
売りシグナル	5日移動平均(終値ベース)が 10日移動平均(終値ベース)を下抜け
仕掛けタイミング	シグナル発生日の翌日始値(成行)
手仕舞いタイミング	
その他	ドテン売買を行う
バックテスト期間	1999年1月～2006年12月

損益曲線



ゴールデンクロス／デッドクロスという、テクニカル分析の中ではかなりポピュラーな指標です。投資本の中には、有効であると書かれていることもあります。

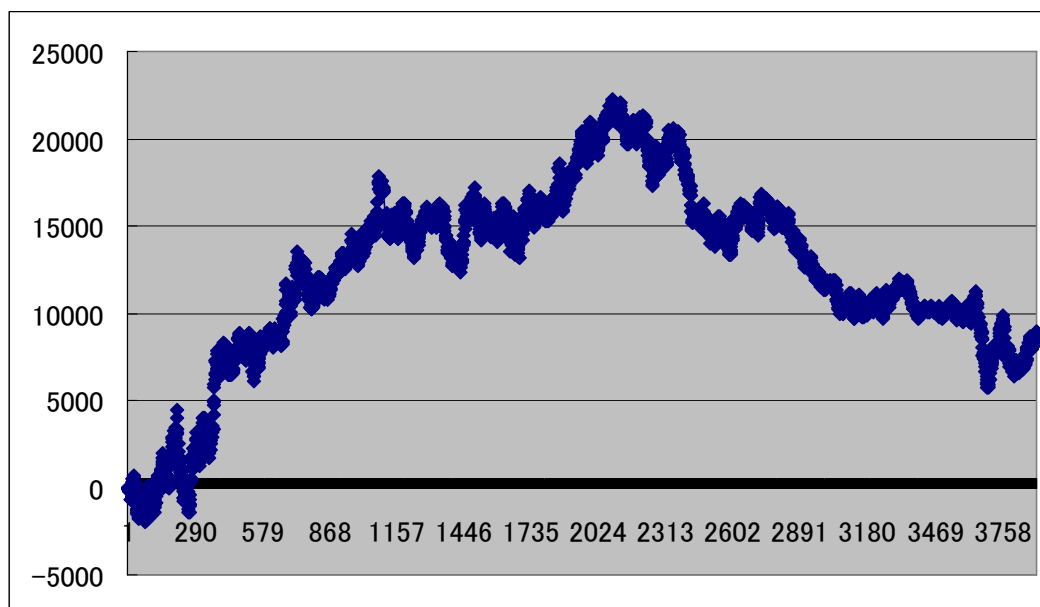
しかし、結果は、この有り様です。

検証結果2 MACD

【MACD を利用したストラテジー】

買いシグナル	MACD(12日,26日) が MACD シグナル(9日) を 上抜け
売りシグナル	MACD(12日,26日) が MACD シグナル(9日) を 上抜け
仕掛けタイミング	シグナル発生日の翌日始値(成行)
手仕舞いタイミング	
その他	ドテン売買を行う
バックテスト期間	1999年1月～2006年12月

損益曲線



MACDはプロのトレーダーがよく使っているなどと巷で言われていますが、これもあまりうまくいきませんでした。

仮に、バックテスト期間の前半では機能していたと考えたとしても、バックテスト期間の後半では、

かなり悲惨なものになっていることがわかります。

以上、典型的なテクニカル指標に対して、バックテストをしてみました。その結果、巷で言われているほどには有効性がないことを確認することが出来ました。

こうなると、多くの人が、

「ゴールデンクロス／デッドクロスやMACDは、単体ではダメなんだ。それならば、他のテクニカル指標と組み合わせたらどうだろう。」

とか、

「5日移動平均と10日移動平均のゴールデンクロス／デッドクロスはうまく行かなかった。それならば、6日移動平均と11日移動平均のクロスはどうだろう。」

とか、

「やっぱり巷にあるテクニカル指標は単純すぎるからダメなのかなあ。
ならば移動平均とRSIとストキャスティクスを混ぜ合わせた独自テクニカル指標を作ってみよう。」

という思考に陥ります。

しかし、闇雲に複数のテクニカル指標を組み合わせたり、パラメータをむやみにいじったりしたところで、損益曲線を改善できるとは思えません。

仮にそれをやったとしても、それは、いたずらに物事を複雑にしているだけであり、システムトレードの本質から大きくかけ離れていると私は思います。

そうではありません。投資で勝つための本質は意外と単純なところにあるのです。

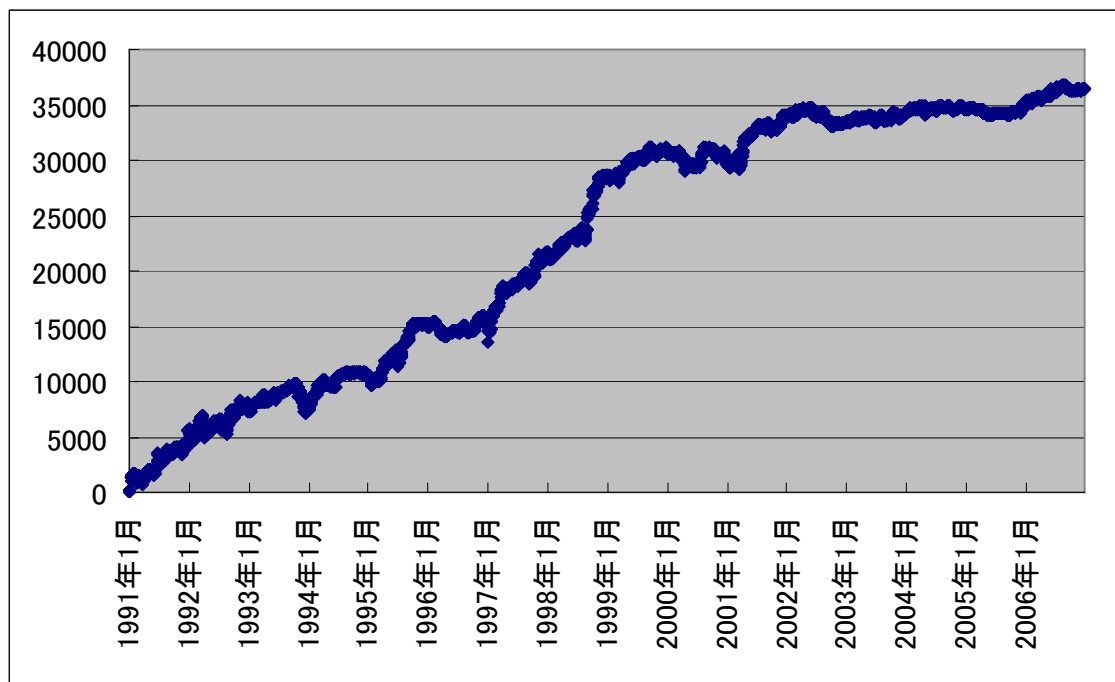
それを確認するために、次の検証結果を見てください。

検証結果3 移動平均乖離率

【単純移動平均乖離率を利用したストラテジー】

買いシグナル	当日終値 と 5日移動平均(終値ベース)の乖離率が -1% より下
売りシグナル	当日終値 と 5日移動平均(終値ベース)の乖離率が +1% より下
仕掛けタイミング	シグナル発生日の翌日始値(成行)
手仕舞いタイミング	仕掛日の当日終値
その他	
バックテスト期間	1999年1月～2006年12月

【損益曲線】



いかがでしょうか？

こんな単純なストラテジーで日経225先物を1枚トレードしているだけでも、あなたは1991年から

2006年の16年間で3,638万円を手にする事ができるのです。

つまり、年間平均227万円の利益です。

資金300万円だと日経225先物を2枚トレードすることができますから、その場合、年間平均454万円の利益となります。

これを見て、あなたは、

「プロのディーラーは何をやっているんだ？」
と感じたかもしれません。

そうです。日経225先物の世界を恐れることはないのです。

プロのディーラーが数多くいる日経225先物で一貫して利益を上げられる戦略を見つけようと思えば見つけられるのです。

しかも、それは意外と単純な戦略なのです。

5日間の移動平均からみて、売られすぎているら買って、逆に買われすぎているら売る。

こんな教科書的な逆張り型のトレードルールでも利益をあげ続けることが出来たのです。

利益が膨らむと人はより強気になると言われます。

これは、その大衆心理の逆を行くことで、着実に利益をあげるタイプの売買ルールだといえます。

しかし、この検証結果だけを見て、明日からこの戦略で日経225システムトレードに挑戦するというのは危険です。

残念ながら、多くのシステムトレード関連商材で、この事は、ほとんど口にされていないです。

では、なぜ実際に儲かる検証結果が出ているのに、それをそのまま使用してはいけないのか……？

その理由と、対策を考察していきたいと思います。

投資関連業者は絶対に口にしないシステムトレードに潜む罠とは

なぜ検証結果が良好なのに、そのまま実践してはいけないのか・・・？

それは以下にあげる3つの罠が存在するからです。

(1) 自分自身の手で検証を行っていないため、一時的なドロダウンドで、ルールに従ったトレードを行えなくなる

・・・長期的に見れば安定的に利益があがってきたシステムですが、一時的に損失が続くケースもあります。10連敗することも普通にあります。

その際、自分で検証していなかったら、「果たしてこの検証結果は正しいのだろうか。」と疑心暗鬼になることでしょう。

特にトレード開始直後から負けが続き、300万円の資金が、180万円になったらどうでしょうか？この問題を回避するためには、自分自身の手で、この売買ルールを検証する以外に方法はありません。手間を惜しまずに検証するようにしてください。

(2) 単一ストラテジーで、日経225先物という一つの投資対象をトレードしているため、損益が安定しない可能性がある。

・・・長期的に見れば儲かっている売買ルールですが、例えば2004年から約2年間、損益は横ばいの状態です。

これまでに十分な利益を手にしていたのならば、耐え続けることも容易かも知れませんが、2004年から開始していた場合、トントンの状態が2年間継続することになったわけです。

果たして、この状況にあなたは耐えられるでしょうか？

投げ出したくなる可能性はありませんか？

これを回避するためには、複数のストラテジーを合成させることで、損益を安定させる必要があります。

(3) 適切な売買数量が分からないために、不用意に大きなポジションを持ってしまい、一時的なドロダウンドで破産する可能性がある。

例えば、この売買ルールでも、ピーク時の資産から一時的に200万円以上の損失を被っている局面があります。

もし300万円の資金で、日経225先物2枚をトレードしていたとすると、損失は400万円となり、

破産することになります。

この例を見れば、資金管理があつてこそ、儲かるトレードルールを使用できるということが、容易に理解できると思います。

この罠を回避するためには、自分できちんとした手順に基づき検証作業を行って、最大ドローダウンを把握する必要があります。

そして、許容できるリスク量を勘案しながら、最適なポジション量を導き出す必要があります。

要は、まとめるところです。

『自分の手で過去データを検証し、そのシステムのリターンや最大損失といった詳細を把握する必要がある。』

そして、そのリスク量に従って、最適な売買数量を導き出し、ドローダウンや精神的苦痛に耐えるポジション量でトレードを執行する。』

これが面倒くさいと感じるのであれば、トレードで儲けようと思えること自体、やめた方が無難です。

何度も言っていますが、適当にポジションを持った所で、損するのは目に見えています。

自分の感覚でトレードして、次第に資金が減少していく。

それと共に、心もすさんでいく。

含み損はすでに、100万円以上。

食事は喉を通らない、夜も寝付けない。

「ああ、トレードなんてやるんじゃなかった。」

こうなってからでは、遅いのです。

私は、本当に沢山の人が、こういう状態に悩まされているのを、目にしてきました。

だから、このレポートを読んでいるあなたには、こうなって欲しくないのです。

しかし、いざ検証しようにも、色々と難しい問題があります。

- データはどこから取得するのだろうか。
- Excelを使って、どうやって検証するのだろうか。
- そもそも、どういう売買ルールが有効なのだろうか。
- 最適なポジション量は、どうやって求めたら良いのだろうか。
- 日々の売買シグナル確認と、トレード執行は、どうやればいいのか。

疑問は尽きないと思います。

自力で調べて挑戦することも一応可能ですが、日経225システムトレードを実践する上で、キチンと体系だった説明は現状存在していません。

また、有名なトレーダーとて、その検証手順に致命的な問題を抱えていることを、私たちは知っています。

一般的に言われている方法で日経225先物を検証すると、実際の運用パフォーマンスとの間に、大きなギャップが生じます。

そして、そのギャップによって、大損失を被ったトレーダーが、かなりの数にのぼっていることも事実です。

他にも、儲かる売買ルールと称して、売買シグナルを配信するサービスが多数存在していますが、それに従い続けることも、相当難しいことは、これまで見てきた通りです。

「検証によって儲かるトレードルールを見つけて、それに従ってトレードする。」

こう口で言うのは非常に簡単ですし、実際、“誰でも容易に実践できて、トップトレーダーと同じパフォーマンスが得られる”と、投資関連業者は口にしています。

ただ、本当は、システムトレードを実践すればするほど、注意しなければいけない点が多数存在することに、驚かされるはずです。

そして、大多数のシステムトレード挑戦者が損失を被ってから、そのことに気が付き、結局、また新しいトレード手法を探し求めているのが、現状なのです。

では、どうやったら、日経225先物システムトレードを実践し、本当に利益をあげることが出来るのか。

その具体的な方法を、以下のページにすべて書き込みました。

もし、ここまで読んで、

「日経225先物システムトレードで、自分の年収以上の利益を手にした。」

と少しでも感じているならば・・・

今すぐこちらをクリックして、私が提案する方法を熟読するようにしてください。

<http://www.esystemtrade.com/deli/letter2.html>

このレポート、私が億近くの金を手にした過程をふり返りながら、全力を込めて書き上げました。体の芯で理解できるまで、何度も繰り返し読むようにしてください。

あなたの成功を心から祈っています。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

インターネット・インベストメント・テクノロジー株式会社
代表取締役 保田望